

2018年度 司法福祉全国実践研究集会

～司法福祉における社会福祉士の倫理と連携におけるジレンマ～

国の再犯防止推進計画が策定され、本年度から地域再犯防止推進モデル事業が進められる中、福祉的な支援にさまざまな期待が寄せられています。

社会福祉士が担う役割は一人ひとりの権利擁護であります。本人の意思に沿って適切な福祉サービスを調整することにより、地域生活を円滑に行えるように推進できるものと考えます。

本研究集会は、司法分野における社会福祉士への期待とその役割を学び、社会復帰支援にかかわる社会福祉士の実践を通して「司法福祉における社会福祉士の倫理と連携におけるジレンマ」を考えることを目的に開催します。

1. 開催日：2018年10月27日（土）
2. 会場：全理連ビル 9階（東京都渋谷区代々木1-36-4）
3. プログラム（予定）：

時間	内容
10：30～10：40	オリエンテーション、開会挨拶
10：40～12：00 行政報告 (80分)	テーマ「司法福祉における社会福祉士への期待と役割」 報告1：地域再犯防止推進モデル事業の実施状況について（法務省 再犯防止推進担当） 報告2：地域生活定着促進事業について（厚生労働省 社会・援護局） 報告3：第3次犯罪被害者等基本計画（警察庁 犯罪被害者等施策担当）
12：00～13：00	昼食休憩（60分）
13：00～14：30 基調講演 (90分)	テーマ「司法福祉における社会福祉士の倫理と連携におけるジレンマ（仮題）」 講師：水藤 昌彦 氏（山口県立大学 社会福祉学部）
14：30～14：45	休憩（15分）
14：45～17：15 シンポジウム (150分)	テーマ「司法福祉における社会福祉士の倫理と連携におけるジレンマ」 コーディネーター：古曳 牧人 氏（駿河台大学 心理学部） シンポジスト：田中 洋子 氏（広島県社会福祉士会 司法福祉委員会） 徳田 暁 氏（日本弁護士連合会 高齢者・障害者支援センター） 山下 康 氏（日本社会福祉士会 リーガル・ソーシャルワーク研究委員会）
17：15～17：30	まとめ
17：35	閉会
18：00～20：00	懇親会（希望者のみ）

4. 参加対象：社会福祉士、または司法福祉に関心のある方
5. 定員：120名（先着順）
6. 参加費：都道府県社会福祉士会の会員 8,000円 会員以外 11,000円（資料代含む）
7. 懇親会：参加費 4,000円（希望者のみ）
8. 申込方法：裏面の申込書に必要事項を記入し、E-mail または FAX、郵送にてお申し込みください。電話でのお申し込みは受け付けておりません。また、E-mail でお申し込みの場合には、必ず件名に標記研究集会名をご入力ください。生涯研修センターより3営業日以内に申込書受領にかかるメールを返信します。メールの返信が届かない場合には、通信障害等が考えられますので、裏面にある「問い合わせ先」までご連絡ください。
9. 申込締切：2018年9月19日（水）まで（E-mail、FAX の場合は必着、郵便の場合は消印有効）
10. 参加可否：参加の可否は、9月末頃に文書にて通知します。併せて、会場案内、参加費の納入方法、キャンセルの扱い等についてもご案内します。
11. 研修単位：生涯研修制度の単位は、1日間すべてのプログラムを修了することで、「生涯研修制度独自の研修・実績5時間」となります。
12. 主催：公益社団法人 日本社会福祉士会